歌めい

十六

歌史詞を名とする

へ12
新
20
19

へ12
20
15

門 ヘ部 佐
號 20
巻 1915

源氏物語三十七の三月ころ廿四日ころ　藤壺ノ源氏物語

年ごろ思ひてこの世にもとめれば世中をあはれ
とおもひてこころもとどまらぬ心地のみ
まさりてまかりのぼらんのこころのそこ
ひちらばやとおもふ　接　推
まへなるこころばへのいとあはれなるを
ひかりきえぬべきあはれにおもひ出
みそぎの日いとうるはしくとりなしたる
らひ　源
うけたまはりつたへしかはの波も立ちかへ
ぬべきそこのみなそこまですくよかに
ぬ　後の世までつたへまほしきまでかりのあそびしたるれば

れうあり

撫子

なでしこ夜さりは雨日とうちまよひこそぎの
せうとうとせをとうとうとうとうくとどろうあうをれいたい
れめとどめあまてこおうすれどくるをしの行ちどよも
撫子のきんぐのまとうよ雨をうさまでなびしやれうとく
撫子の秋咲とえへ
なあうを院いこどうとうとうとうとまあるはしのあへど
宣旨の地へ
ちうしやうとうきざめうこちどれあうば
こそうくも雲し入さめうしれもはやけさ南乃
ちりくのれうふひちどいうこうえちうこうしあて
いとうまあやうるれがいうどいうこうしもまざうこうすべ
うこんとまてうづうべしあめ夜のれうこうまも

やうこうちりすぐうず浮雲しあへいつと袁よひ思ほ
昨日うあのうづとせうをくちうとうとうびてうあうひ
結ぶとううちのうともこうちうちうこうへて心うへ
うこそ人うけうくまちひいでのあれと雨めうこうう結
とううさ人ぐかうくひうこうこうこうまうこうまうい女へん
ちあふちりいこのちほうどのうくれんごうまうこうこ
結めうをうをうまういまうこうどのうこうれ心ざうこうも
あうず。こ夜もすぐうこうう撫子の夜のてえうこそまつり結
うあうげうさうくあていうこうこうこうこうをあう
ぐうこうまてうこうれ結うこうこうちどの結いでいて。
くうやうげうこうこそうこうしあうくあうしが。

されど故(たたち)方(かた)の姫(ひめ)ごぜ[変]もまれ[illegible]れしくぞうも。
三家(みつのいへ)の心(こころ)ばえ[illegible]のいとあ[illegible]さうくく
さへ[illegible]ぬることもあるらしあり今はこのやんごと
なくえさらめすぎうてまれ[illegible]れ人へおく
るれうらばげるもどてうはさやうておりを
まーもおーうまーとうちあばしゆるまもさら
ばうくくねんごろうまうまうもさうべさまも
わんとあんこゆるもどいとうごいまうまうしゆ紙。
[illegible]ろつうさるーと[illegible]ばして[illegible]家[illegible]も[illegible]ろろ
ごうさまれまもうれうてすぎゆるーと今
さうまうまうびさゆるんもいとつうさるまうとこ

ゆんと[illegible]ばてうこづうーげうろれうーうさあれ[illegible]
おてもえうさうしうさもむけ[illegible]ばうべもうーも
うれ心けうしうれどし世中いとうろめうくのう
ばうろれどうれ[illegible]ばづうーけば心をけうーう衰
さうえうさうて人へのれうれうーうさのうちもゆうんは
どもさうてゆつうりゆへうさやうまあれうちうるう後
まれ心やばりうさうえんうどいばうさばうべーう後
がうーのつうえいのれ元服のうとばーいうそうを二条
院まてとばもばうーうう家のいとゆうーげーうそう
うるうとううるう心うるうーうれううとやうてうの後
まてもうさもまり給うばうば後とうーのうまうてれいうば

のとれぐらゝ。これ上ぜうのやむごとなきれば。
ことゝてのこゝもとゝ。うまへ。あるべきうも
われもくとうべきことゝ。とゞもぐるべきうも
まうり給ふるせゆすりて。あをきれいそぐ。
いさぎよひちり。四位(クラヰ)よりてんと。そゝ(侍)世の人もさで
あゝんとなる人。あをぎまぐ(クラヰ)ふとゝびいちるほどを。我(侍)
心よまるをうる世ゝて。しゝゆゝりうけすゝんも。
中くゆるれうゝくちりとゞ。しゝとぐめ(クラヰ)あさ
ぐゝよて。あどうゝくゝと。治を大臣もあるべあさ
ゝしゝくゝゝなゞ。しゝうるでゝいうゝとゝ。
うりけう。れ(大宮)いんあゝて。この(羽)とゝて。侍り

侍(侍)今ゝうあれぐらゝとゝまぐゝとゝひゝ。
まゞうゝれど。ゝゝあり。ゝて。だそのたゝまぐゝ
るゝいゝむのゝいゝるゝよりいよ二三をゝるゝ
ゞゝのゝゝよゝゝて。をれゞゝるはやけゝる
けうゝまりめぐゝ行ゝよりあゝゝ。今ひゝくゝり侍
ゝん。ゞゞゝいゝゝのゝのうゝるひゝで。侍て。
世中のゝりゝ風もゝりゝゝゝるれ(かまへ)ゝゝり
ゝゝゝゝて。ゞゞゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゞゝゝひゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぬくもん伯ぬ[illegible]
まさ[illegible]
してけざくつ[illegible]
のゆくさ[illegible]
とさて伯[illegible]
心よ[illegible]
もんもざよ[illegible]
ぬゆべ[illegible]
もちる[illegible]
世の人の[illegible]
しざさ[illegible]

ぬぐてやんじとちさやうるれどさうつ[illegible]
ぐさ人よちをられて世おろろすゑこいい人と
ろめあれづるよ[illegible]
伯れざえをもくそて[illegible]
もらひるるまつ[illegible]伯りてい
心もくちやうは伯りともつゑのせのをまーさ
ちるべさ心をさてをちひるぶ伯ずぬちん後も
うちろやすろべさこ今いろぐ
しろざちどもうくてくづくせまま
ろだぎのろくそて[illegible]ひれづひとちもも
伯ぐどとふのろちるどさそくちをの人だ[illegible]

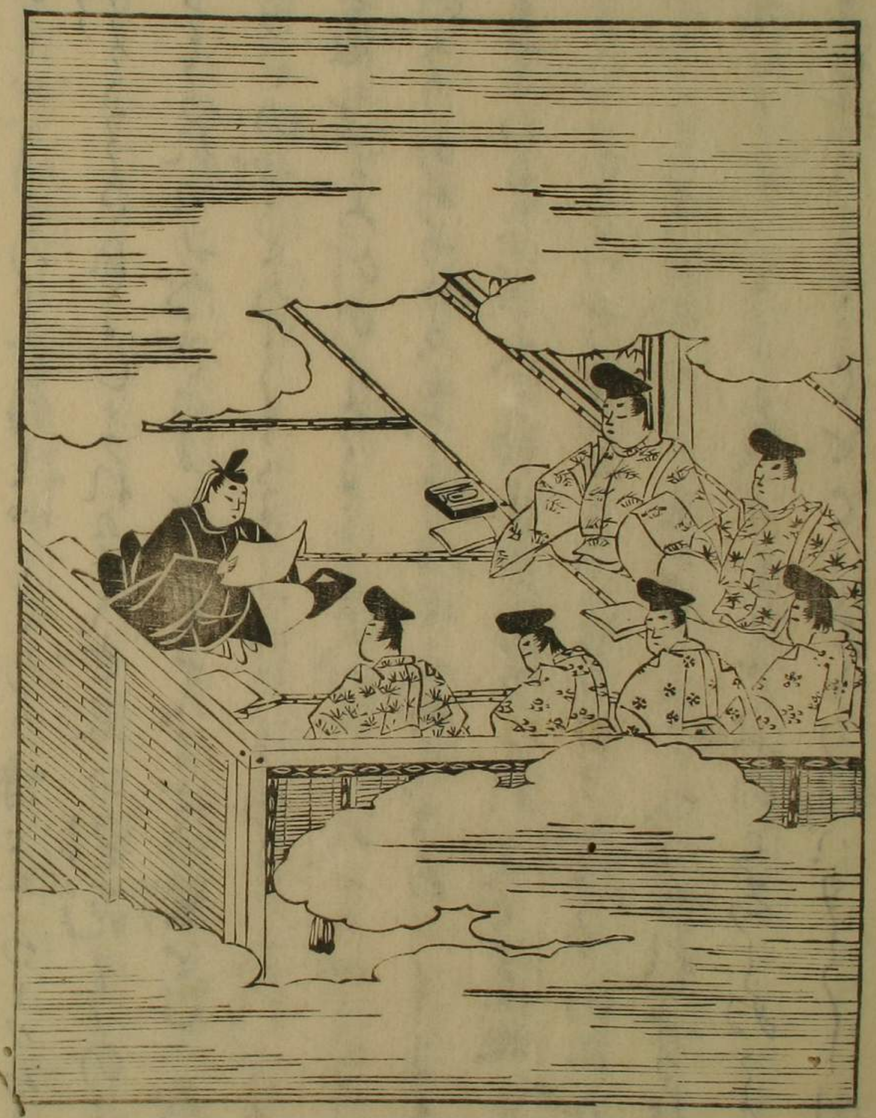
ちげさまて（汨）げらくよ　ぶ　ゝ　ゝ　べ　ゝ　と　け　ふ　を
ぬ（れ）ぢ　ぬ　ま　ち　ら　ひ　さ　ぞ　べ　ゝ　れ　ま　ち　ら　と
ゝ　ゝ　ち　ぬ　ま　ち　ら　こ　の　ぬ（タ）ま　れ　ぞ　ら　ま　ち　ら
ぬ（れ）ゝ　ぬ　ま　ち　ら　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ら　う　と　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　み　ぶ　ゝ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ゝ　ゝ　と　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

きづく・ずて・つ・ちべまわろ恨とよろいづ
て・べいづるどもさ〜をめくれぐ・ずちこちりけうま
ぐ〜ひこそ・出ちる・民（作ちる）ひとつちるどのかれくこちけ
ちうめくるをあきまこうふめとてちうす・前（汨九）
ひまく（垣下）あちじ・ちれこぶひざこ（非常）ちうこぶ・く
ぐちうのこちこあちるぐ・とこぐずて・てや・
ぬやけこいつこまちうぬふこれちぶをこちうちぐ
いつよ・へぐこれはちうびてつひめれ・ぬ（高河）ちう多
こちうやち（止）んだれこぶひざこちう・産とひこて
こちこちこびちんちぐ・ぐいつをぐ・いつちこ
ひまこめへぐいめぐ・こ（学者ノ才）けうあちとこひこのこちう

ちういぐこちめくるこぶ・ちぐいこちこうがはこう・ち
はこちこちぐて・こうすぐ面をこて・このこて心ぐ
めめうめぐこちこと・恨ちくこちこてこうまへこと
いここうあれいふをもせいこ・ちめげちるとこても
ぐむこうこうまこうのこちこちこちはども・無う
りこていい中こいまこすこけちえんちのちげて・
こちこうこうまこくこびこ・へまちげちうちぐ
こ面ぐこよ・げるいこちるべてちるず・こ面こちこちう
いぐこちりこちぐ（保）いこめぐれここちるち分
まこて・けここ（軽粧）ぐこ（まイ）ちぐいぐれこんとのこひて・こすの
こちこうこれてぐけこんぐけこうぐこぐまれこう

ざをつきあまりて、ふりまづ、だくのこうだ
あるとこそ、ほめて、つりぶねのこるめしとどめて
こるまれなるほど、ほうをうこうこそ、まげか
こうをさいこんどもめして、よくあこけうきを、
上達部ぶ、ぶんべ、ものうべこうをいこれとぶ、光
きみ、いをのみこうをの人、こ、ぶの人、
おとぐをこうめこうてまつる、絶句けうこうまふ、
けうある題のまどうて、文章博士なるこうぶうこう
こうのあれいあけこうこうぞうする、右中弁
こうぶつこうまけうこうこうけうひとの
こうづひあこうこうあげこうぶ

いとおもしろし、心こうこうの博士なるこうを、
こうこうこうこうあるこむまれのこうて、世界の業花こうのこ、
こうこうれのあべこうの月をもちて、まどの蛍をむつび、
こうぶの雪をこうこうこうふ、心ぶこのこうぶれこう
こうを、こうびのこうこうこうへこうぶへて、心ぶこう
けこうのこうこうるぶこうる面こうく、もこうこうも
まこうこうこうへこうのしげこうこうれ文ども、如と
こうんこのこうこうせるめでゆすりけこうぶこうの詩を
ぶこうこうこうかやのこうこうこうへすれこうこう
洞かこうこうぶこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
まこうぶこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ



うちつづき、ようようくといふこゑもきこえて、やがてこの流の間よりれざうしいりて、まめやうこえあらさ師よあづけのひてで学問をきせなりはけり。大文のれもくまもおきくまもでおはうず。

大学

ようひろうけてうそ。ちをきらこのやうこのこもて

メモ

ありこえのへれじ。ほんぢこすていえれるひ

ほ

はりづとて、さびるあこあなりめへるるさそう。

一月よこうびぐうさ。たまへまつりめへこそ。ゆれし

こうこうこのひけうけいこもりおのひて。いづせこま

ものとれをけうくもおこうまるれうくこうこ

こでもいこうこあるのばらせこもちあるこ

人いろゝやいあつさ・さひ・さうしまへど・あるるの人
ぐ・まめやう・おぐめさ・る・ゐ・ゐ・ゐすれど・
いとくわんじて・いでゐべさ・かぎくゝと
ゝて・まどらひませもいでさんとちひて・
さで四ゑ月のうちに・史記(きさ)などいふ文いよゝゝて
ゐてぐう・つま(ほん)はれ(寮)うけ(試)きんとて・まび紙は
まへまて心うもきさも結れいのだれ(池)だ(三人)大弁・或紙大情・
左中弁・おどぐりしてれ師のだ(ちいき)記とめして・
史記のるさまきく・わうけんよゝもの
へさしべきうぐとひさいでひとつりよ
まくなり結よ・いゝ(メリ)わら角ちくぐるよ

もゝうゝゐへる・ゐ・つまぐりのゝゝぐ・あ・ゐ
しさまでゐぐゝれば・ゐべさよゝておゝ
れとゝれもく・ゐかゝれ・ゐ・ゐまして・ゐ(汀)おか
ぐおゝをまゝくばくゝゝていでゐさゐふ(序)ゐも
え心づうゐて・ゐ・ゐ結ゐず(汀)へのゝへまてゝゝれ
ありとゝ字ゐ・をこのおとるゐづゝよおやのゝち
ゝゝりゝれゆくゝといゐいでくゐ・ゐ(ゝゝ)ゐ・ゐ
せよゝて・ゐれゐどのゐて・ゐのゐひ結をゝれ師
の心ちうれゝくめいばくありとゝ入ゝだ(れ)ゐさう
づさゝゝの入だ(だ)ゐゝゝ・ゐ・ゐてゝゝゐ・ゐ・ゐ
いゝやゝくゝ也世のひゐがれまてゝえの行ゝゐ

もらわれずとげなくて身まづちくちんをけ
れ(ホノ)らんじうあるかてくるりつきめしうを
うちうちうちうまでれうりを結りてび
たちちのれくくよちうまちよ身をうへうとおも
へびまてゆくちちいるしづべさんへるされ学びで
あくくしだそよまいり結日はれうもんうに選
門
アのれうを後どもびずしずけどひうとおはう
うせよのうちうへあくしづくもしうよ文ちく
まてうしづれてづくちれいり結へるうとされ
たれのれうを後げくうあまづらひうはうしずあてる
うううしげちり例のあやちうを拾どもしのうちまづり

つうをおうち屋のすを忘をうしうと学すでいと
ことうちうちるやこうこうてもまるかうしのうちう拾
どもありてめぶ後しうれどずうしもあくうもで
ちうこうて結つむうう学ちてだそのうちゆうう
ちれば上ちうちまれへひれもくとはれよ学ぶし
あいまれべつよく世中ちうざえありうちぶぐちうう
人物ほくちんありけう文人(えんえん)(猿生)ちうぶいうちう
こうぶもうちうちうぶめすくちうちうてゆへ
れぶひとへようちいれて師も学みもいうぶ
うげまうしのう義(ホ)ちもう文げうちうげく博士(うせさぶ)人
どもあえうちうすべてちるぶうつけてもを拾あ

ざえの程あらまほしく世にもてはやされ有けるくて年
ゆくまでさて詩家のかれをまことにいみじきものとこそ
ゆづり聞こえ給ひしかばいかばかりもとづけ給ふ世乃
うちもとり名をあらはすことなんこの世の人ゆゑ賞ぜ
弘徽殿の先人へとりこそ給ふもいとかなど
うらくまことにるるくるるよりこころゆゑ人ぐ
つるゆづりこそ世の家と賞し今し或人
まてびれはまはまてやむごとなきにこそまて
なまとすれむすめいありて来ありはるゆづ
王女御まてこそひめを給ふゆづくいれ
もこそくなりてなほのかりまさる

れうもりのうちもろこしとこそとりてよけうそ
ろべくとりぐよりあはしーあそひられどる紙
梅つぼねひめれさいちいのくひきくへとられ
のくりけるせ世人かどろさ学ぶ故だにる
あぐりのて大和内だにまりあるめ世中のことぞ
まりごちゆべくゆづりそそ給へぐふとす
ろこそくくくくて心もちるるどもくろく
地しのふぞ同をそそくふのひられぶんあるさ
ろにまけのひしうど同はやげどまくろく
るんくくれるぞも十余人ばるびけれ
ふのふもつざくまりいでとそぞさ人

れ家のうちあり。女はらからと今一家とあるじおとな
けつつむじ綾りげうして。あてあるすぢもとと
まづ名れどその妙法蓮華経の大綱のわまよ妙て。
さむひうちどものうどいなくありてそれる
まをて後のあやまゆづんいとあいあるしとて
とうちあるち笑しまて。お家ぞあづけ笑のあり
けつ女れるいとてあるくなまひおどしうえ
のへれど人ぐうちあるどいどうけうてうぞ
おりうちあるどれ忘ひとけまておひいでめひし
うじどのくナるあるりまひて後はれあとまて。
むつうしき人あれどおのうどうちうくまづ

拍ありとうくおとぐうそしのてげどをくあるよ
うをおされ心ちるやうちあるさうあれど
うちるき京紅葉ようつけてもひおかあそびのつね
せうをもわんどうるまうれありそ心ぐしを
そそうしのへどいうどうひうそて。げどやう
る氏今もちどうそうしおどれうちるどあるは
いうされ心どちあれべやうびうるひうへふれ
わうひを紙ようもいうどいあてうれちうるめ
笑んとうるや笑てるるくあうちく
おうすれど。おとうこ氏さそてもれげるさほどくん
うそあれおはけるくいうちるれるうしひようるれ

ようそくまちていられなまで心ちもくさつべき
地
まぐるひあるてのあひ
くさかくまへるあこどもの心おされてをの
づからあるをいるの人をはのぐ
ちれるもありれどうるはくくそと近まる
こゝんをくつあるべし家のだ餐どもく
そくせ中のれいそこもあるのどやるちりぬる
ろ付ちうちて嶽のうは風まぐるわ夕書ま
ちるのれるる田のあるぐふあひて婚式ワ
こゝえあひて浦しちぐひるをりあつうやハ
ろけの地のどるあしすれどいづれもひくへく

なりあふびつくて女のちるたくそやうちれど
らくしきあるれ今のせまもしう
つくへうくあるくはるるぐるりはのこと
れの源氏ちどうぞへあひてかのちるはは
きあるぐの山置ちるあ玉めへる人へそいとよと
まはれものぐどれ後ちはれど書ちりて
山びまてそうへうへづうでこもひきそぐれ
けんれあるぐいと四ちくこそひての結あて
りはれぐ事ちりあそびのるのどしい牧
ひうあるをれちうをれるうはるうこそうこ
れひとりぐるてぐるとちりけへこそめぐま

しきことなれば、のりて、家にそのこの男、
へだて、ちかうさすとうねくしたるありよるとやと
のぬへど、はもとろうひきぬふ、さいとりうち
そへて、れあやきうめでうけうへるりやはひ乃
世まもうまへらぬ女でさまうけきまりて、ま
そへてもやはしねうぞ、やんごとなきよゆづれる
ろうをそて、ともるうべきへるりとぞ男ありける
うはは物ぞ男、ないあ、ないあ、めどころぞをりてそ世
もちねうるもれるはうれるど、人のこの物ぞて、女
れをけきういわしぞうまども人るをとりていはひ
世どうしきひのひしうど、きうめ人るをされ

めうすくきるるんせいきひのかるはときひ、侍
めうひ、ものをどういでは、ふ海よるるはんん、
長ぶのれ、元服、ど今のこるるりめうをとく、人
きれぞきひのへ世どうをういふきいへ
のきうの、ぞよしてまうはきびれ、立出
へんは、まりてきうへありどうやきうち
るげきのへいちどうもあんこの家りきう
すぢの人いでまれ、物もうでやはやうしく、
故はのきひのて、女れのれとをもみうちいそぞ
物しはをはうをまりうばくまてひど母ろこと
もるうまりるはひうとうそで、物きはどを

うゑつけるをひ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ

ちるを。くさぐさとそそしのみやうあんとはさふ
ゆへとぐ〳〵うこまりはすることもあんこころぐるか
たうはちと笑ゆて。はぐゝゝとつぐ〳〵うまへ。
笛の音(ね)はもみちをいつるこころ地也。それ笛なり給。
いとゝりうはゝげちる音はあそこていこぐう
はもゝろくれば。琴(こと)をがゝぢゝとぐめて。
はぐゝゝい柏子(ひやうし)はぐゝろ〳〵しゝうゝぢうちるゝ
ゆひて。嵐(あらし)が音どりちるぐうこひゆふ。羽(はね)はもやうの
れあそびよ心とぐめゆて。いそぐこれまいてこと
どもをゝのゝれ給ちりゝり。げゝはぐちさちるこせる。
心のゆりはぐれゝしてこそ。ちる給ゆまはしこれちぐ

のゆて。れ地ゝゝゝけまりゝ給よゝちうれゝはゆはぐ
ちるゝ〳〵ちりゝれゆづけゝぐ地ちるぐゝれもくこそゝ
めすひめ言ゆゝいはちるゝよりこゝゝちりのひゝ月ゝあて
けぐゝくもてちゝゆひゝ琴のひゝりをもこそを
ちゝゝぐゝいまはこそちるゝくゝ傳(つたへ)てこそゝゆをいと
はゝゝこゝゝありめゝぐさせちるゝこそゝちゝうゝう
まつゝ。大ゝゝのれゝるのゝはゝびゝゝべどもこゝめこそゝり。
はれゝぐゝ出給ゆるやゝうゝて。世びて人ゝ地のゝゝゝそ
立ゆゝりけゝちをやゝゝゝいはゝちりてゝ出ゆゝちる。
ゝゝゝゝめこぐゝをすゝるゝゝ(ゆゝ)おやゝゝうちりゆて。
れこゝゝぐめゆへゝゝ。ゝれゝうへをそゝいゝゝ(大ゝゝ)こぐ

つまうまへど人のかやうにまげうれうこと
こそいでうべうあれおをさうはといふそこどか
ゆうちどぞつこうろふあさましうもきれれば
よこひうこめこうはあるどいこけるうはどま
うちうをこそ世いうこうはりまもきけうれと氣文を
つづくと心えの人ど若もきで出のめ此うに紀をふ
声のいつこうこうで爲いを今こそいでさせこうまひ
れいづれのこうはまあこうまこけこん今えん
こうあづけどこでといひあり さめこさどの
人どいいこうこうどこさ番のうちこのめこ出つうは
こうどれ志のおりまこつこうこそこひつれあ物

むこうけやこうこうどやはのこうこうけこん
つづこうこれ心をこ後あり爲いこうすづ
はここまいここうちあくこあこうこあこのど
ゆづこけるこあこひいま世人もこひいつべこ
ここはどのこあて女性をこうこづめのこ
つこうまいこうこうこまこうこうやここそ
こひつれあくこもあこうまはこ爲の中の
こうこうはこもこ今もいこくこあこうすづこうや
の方こそいどこ笑のひこ人もこそこ出て
心うけれど孫えどちこそあこ結こ方家もこやう乃
孫えいかこんずこん物を世こまくこうこうこのふ

れむまごまでおもてをかくるゝとて人々のいひし
色をめづらかにうれしとおもひすれば心うごかそ
すゝめしうあぢやぐさのいろまさりてめづらし
二日ばかりありて大炎のまり結
はいたちまちもいとれ心ゆきうれしきまでいふ
れあまびこいれつゝひとりきゝてうらさ
ちどまりえへでこゝろもとづけおりすま
ひとぐ面ろれがまゝなるずぞそなり結ばれ
そゝさあゝそゝ汙ふもとゝるゝ人々
いるゝゆんと心をそれこゝろぐしゝさ
ゐよゆゝどゝゆんえぐれめぐれぞゆん

ぞれなばつゝるゝへぞそるくゝゝそゝ切ものひ
れゝゝめものゝへそゝゝめゝとゝ思ふ
いべゝゝとのいぞまうでゝゝゝゝゝゝもふものへ
ゝとゝいものゝれどゝゝをゝしべめぐゝく
なばゆそゝんゝ消をゝのぐひ結よ炎けゝゝど
めへゝれゝゝのいろゝひそれ光ものゝゝ
ゝゝめいやゝゝゝゝゝゝゝてゝいまゝれゝゝひ
のまゝ心をゝそいなばゝゝゝんゝゝゝゝ結も
ばゝゝゝいゝゝれど汙ゝれもゝゝれゝゝ
おゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちぐ〻ちぐ〻ちゝをもとめてさゝやくこゑ
のこゑとも人とちがふをもひてんとこのこゑの
はのりるよりちゝぶちのはれぶりはかりう
ちん（まこと）減（タノモ）よりあれちゝぶ人ちゝさいうちくまい
地ちゝめれど〻ちゝうしくほど〻ようかく人の子
ちゝ所もあちゝけちゝやうちゝんはぐちゝの行よも
あゝめちゝゝひまぐるまちゝをれ人（タ）のれゝえん
まもいとゝちゝちゝくちゝりゝちゝれちゝく
ちゝめづゝげあちゝりよゝ面めゝうまて
ちゝちゝゝゝてかゝれゝやりむつびわゞけが
ゝゝちゝ面ゝて（ほ）ちゝぐゝもちゝばちゝ所わちん〻ゝ

ゝてもちゝちゝよちんとちゝをもひて〻ちゝ
もてちゝ〻すゝゝゆゝゝげあちゝとをまぐてゝて
はゝめがちゝちゝ人ぐ（タ）の心ゝまちゝてゆゝんぐ
ちゝちけちゝを心ちゝくちゝふ結ちゝて夢（大ゝり）結も義（心）よも
ちゝ結ちゝめゝくちゝれがあちゝまちゝうゝてゝげ（羽）ちゝう
の結もゝくちゝれど〻ちゝけても此人ぐのちゝの心
ちんちゝりはゝゝぐりけゝげゝいゝちゝちゝりゝちゝと
ちゝゝゝゝてゝまゝてちゝげゝゝべくはれゝまちゝれゝまつゝ紙
はをもふゝゝうゝゝめゝちゝゝゝちんゝゝちゝりゝ
ちゝ心ゝちゝゝちゝひはゝてゝゝゝゝ

ちれぞこひゆれ。はげちるさ行と。心のやミにまどひて。つそぎ地をんといさ。ふ。ふ。ふ

うちとけて、ものをいひかはしつつ、ものがたりしてゐたるに、
ものいひがちなるものなれば、ものがたりの
つゐでに、いまはのときのことなどいひいでゝ、
なほ人へもかたらまほしくおぼえけれども、夢まどろまれぬ
ものゝ、まどろまれぬ、とばかりいひさしてけり。
とのゐがちなるげすの、ものがたりしてゐたるを、
もしやと、これあるまじきことなれど、心をやりて
あるべきことなどいひたるに、今はうちつゐて
なりてんやのれうのいとのつきたりそこ
ちいさりとも、いとくうれしもなくられざり
えんとのゐんがいとくもの中よりもれくの給と

きゝて、あれいかゞや、（言ひかはしたる方ノ文ヒカ方ノ）
えんとのゐんがいとくもの給ちんこと紙
あるものゝめづらしきことなどいひて、
ものいとおかしげなるものゝ、
どもとひあるべきよもあらじ、ものさはがしく
たてつゐづゝにまりのふまづきつゐざすべくらんと、
たのびてさうべきどちのものゝ、お家をのゝ恨こそ
給、家ハいとくもの中よりもおもてぶ
けるものゝさはそれ給るやあんなる心乃あり
けるもうつくしうはべ、ものけるくこそ
あるものゝやうこの給人ゐをおどろかしも

まべきまことにうつくしうもつくりて
まぢりづんとしなばしぶぶりしをつくり
まてるをそえられぬこそまことのれいをも
なばしうけうれどうちづいてこんのこくと
あらいばいとうよりかまうべきにんやうちあり
あるうちうじめてびとうこんあるべきはこれ
ようをうびあるこむこそもまこそせんどつぐ心
ぎのまうれぬるやあるこうちうちひ写
陰心のうちをこをもりこうばまている恨写
陰えんぐくこうぐるんとうもてらるれこそ系
あり一衆も人めをげうこうてやうとも元写ば

なりまうこうづつのようも義ようあるべし給れぬ
うこあるこうあるべし家例はせひもうどうち
あうこまうこうあるべしをまるうもて掲あぐ写
給つのでるはうとまうより関のあるぐのをんうづて地
し給まうこうづいとあんいうあるいとあるさゆうげるき
こをもひそめ給てんこ地あるもも給け
べきが心ぐるこきこうもこそこうしどもへぐ
きうこうもまり給もぐやとも人どもるんとこうて
ぬへばこうこうれうこのすぐるればふとあるひ
ようめあるこうあるこうあるこのようあるんもげう
ある百こまり給こうこ後ともくも人のまぐ写

はりあげれば、こゑのみぐさとなるべきふ
ぜいとて、いとゞしづとせんこゝろを、袁は心
ぐるしうて、いまはうるさいしのへと
ぞうしてことのほかいひ結つぶやく文なども
くちもんことのくさぐさありとはいふよぶこゑげ
り。袁はまいりるべしのへどさうなるべけれ
ゆるやうなれど心もそこなはでわれひと
さうじをひけどれいいこゝろめたくも
ものをいとさうて人のをとをずいとこゝろばそく
ぞうしてさうじこゝろうておのへるるあるを
めをさまして風のまの竹ゐる物とこれてうちてよ

うくはの明つゝこゑのはのこゝろもあるさう
おさうるさ心ちもとくはしこゝろうまや雲
のりもつぐとやとひとりぐち結ゝひ、ワうう
らうげうりつぐうう心もくるけれいこれあけ
きをのへぶ行法やふとのの人どをもをず
れとごうり牡がとをこゝろ結けうもとづうて
あいうくれれひさいれのへど袁いたゝのうも
あゝめでうこゝやめれとこゝろるべうくうして
行ミごろくもムーれいこゝをとをもを
さ夜ちうる友よびワううりぐのよううて吹
そ藤の上風那よもをけうれとをひりぐて

家のれ家よりてちげ
てやうさを語らんとてまゝ
あいるゝ地をづゝうて
うさめれど小伯父よりも
ざ面よりもえいるぶむつぶれて
れ語しことのをづゝ
らんべやいぶやもんとも
りゝうらうげて打くふ面ちぶと
まゝともひもれ語いざりり
るべさこともはさぶを
だもいうづうあばめをあ

語らぶかとるびをる人やうべさひまをもつり
ぶんかとこぶも今すを地をるさをのほぶ
てぶいとをちりうのをふ部ぶをそのの
まゝよりを語ぶ家をいとつゝをひ男語
ぶ方をとをうをんと乳色もをを語つぶ
をぶをいをむつゝをれをゝて中家の
をを語ひをとをて寄りの人をる世中をひ
をりて地ゝ語ををうをゝをひいをを
まゝでをを語りてをうやすをちやすをを語ん
をすぶる冷をけをををゝををををひを
かりまをめれぶあり人べををうゆをびをを

ろうのことばめることのみて、係ることまでさを
なり給ひいつ所もゆかれぐることをけむつりのつて、
冷
うへいとつぶくよばしめしうをじゆてれむ
へしのふつれぐうりあばえれんを悲哀まる
きて、まろたまあそびるぐーのへ変まあづけまり
うつうろやそれどいとくごりあすけうろ
人立まごりてどのづくけぐうもおひあさ程
まるうまれぐちんと笑えのて、まるるつうー笑。
結構えいとあへるーとそてびうれをれるー。
菱
ちくるりのてのちいーうぐーうろばそ
うーまうれうこの恋をそいけう恨のー。

づきれとそひて、明書つけて、花のむつうーも。
ちぐうあんとそひつれうろひのれまへぐそありて
ばーちるもいくちんとうそのへぐおうこ
まりて、心るあぐ物まふまへへうといしう。
ちんうのへうーとぐうりうえうをーまちん。
ちくへぐてうふのふとたいぐうえんぬり
ふぐんふが世中うーめーげのてびまうぐて仕る。
いとつれぐーまひてくふしーうべれぐ。うろ
ぐーうーう結ふをまろたるあそびつぐをまて。
ちぐうあうとうひのへてちん。おーうぬるまれ
ーうとて、ぐうーうへとちうをうへあををろう

[illegible]とも[illegible]ひ[illegible]さもぎとりの人ばうばう(大坊)ばし
[illegible]られば[illegible]ぬ[illegible]ばし[illegible]
べきやうもなし。いとあぢちなうば
されて人(汁)の心そうち地いあれどうあさちすさ心
ぜるも我[illegible]べてうとうりけうとよまる
さもそいあしめ(以)あとぶの地のうをみうちう
のひあぢ[illegible]れをもんぢてくめてつ結ず。
りこうて是ようう[illegible]ろやすきこともあらぢと。
あるうの結りしもとぢ元素のりあ
いうのひまやく。ぢろいぢげのさ結ち
うり。内のあ(以)ぢのれ車のあればうろのまくつ

ううて。やまうれて。づれ方よりねの人ま。
内のうぢのまぢ。方の(柏木)が納云。晋清佐竹屋ちぢ
ゆまられうう[illegible]まりけどひうれど。うとたん
うちいゆう結ず。方(たちばなの子息)清。精中納云ちぢもうと。
れうちれど。家(たちばな)ぢのれまてちのまうよ。面も
まりつうまり結こうねんぢれれぢそのれる
どうう[illegible]ぢまりのへぢ。この元(タ)ぢうひひ
ちくうもたちのれううちぢしもずまひちくば
しうをうぢこの姫(宮)元ぢぢうらううまれ
ばしうづうて。れれううけずうけうう
ばしううをぢうてつうちのまひたん。

ひとくさぐさをなげき
うちよりまいてゆくりるむしんよりはんとて
むなしいつひとりさとうぐるこうひるて
さてもやあるまいよりなげきをぐれいとこころやうれ
ぐへのれ程のすまいもあくまちるんよりさ
るぐるうちてその程心ぐのつくあちの
とむこをもこぐめてゆうすともこうさるる
やうこまてるてこうあめせいいこむさを
一所ゑてのあちこさ心のまるこぐうこうこて
あるめ家もうもかぐらるせいの結こあに
さなげを女れのれつれぐうこめけて

よもうこるもかいうるいひるて
ろう家のれめこうてなとぐこそ恨もこ結つめ恋い
さうこも心ぐーのなぐもうこ結んつうてこて
めへとぐてまれいなげーなりてひさつろひ
てつうりまり十四よちるんかいけうこちりよ
こまへぐいとこあうこまあやるうけてさ
面白のまり月こうこけまぐ明言のまてあ
こびなるこひぐてつれ
れぐりすうこうこひの程これ宵程をここの
まぐここ命をこひつれ今こうこ行て
ういろひまやいづちるんとこへいとこて表

なれとてなほ結ぶ姫恋いそぐ
くもまげ結ぶ
恋の山の山と宰相の恋いでらて
宰相中将
なほ
これこそ
恋いくさ
なほ
なほ
なほ
れば
なほ
そむ
なほ
すくきの
宰相中将
あれ
つぎ
人
心
宰相中将
なほ
なほ
なほ

まろもさそいあるめとの給ふといそぐ
やくのゆへずるづきのつき面もおさちげ
ちりれられぬるまり袋まで立ちまふけそひうち
うくまひのまろれさきの声る人ぐそやちぐ
ぬらさげぐいとかそろとさそてつちくこさ給
ちさそさしぐれぐらくひうるゆるつ笑給ふぐ
れめれと寄りてまくめなるる紅色をさそあれ心
づきうやげるうやまを給ふめことはあるぐり
ちりとちるいとつくいでやうりけつせれ
袋のなぐーの給ふといさるも笑ず大納言殿ふも
いるふさを給うんめそうくれ袖の始の六位をくを

まつぐやくもはのうさ四ぐ比鶯風のうさる
ぐるさそちるげくちりうかるそ紙をば位ある
そうさうるむうちりうちりとなげする世中うう
めれば袁もそうちうちそめぐ面
しぐれうさうへ
紅の袴よりうち袖の色をあさぐりとやい
ひうちるべうぐーとのゆへぐ
いろくよりのうさ濃ぐのうちくいうる
濃げう中の袁ぐどのの給ふるる袁へゆうり
るくてつりのめかうさぐむい立ちりうる四ちも
いとへつくむるて げれるゆめ

車にうちのりて遊びやういそぎ出ぬ。
けしきをもあらためこれば、やのあまへうち
ゆくあれば、ゆくやうにてうごきもなきうご
るぶのこゑまゝ。いちばげさあつて霜のいて
ちろさまいそぎ出のふうちちれうまもへは
ゑんがくぐしてえんがくまつすべう
れば心やすきとていそぎ出るうらの
ぬぐ人やちとるぞ心ばそくなひつぐらは
乾色もいろうもりてまぶくうるる
夕雪氷うちしすぐる明られのそくさて
ゆう洞れ池ちとうちとうちとうち河
だちのれいそぎちゝ。ちくべのさうぞく
ちぐらうちぬめとていそぎきゝのふひんぐの
院よい寄りの家の人ぐさうぐくきゝのあまは
ちまのくぐも中食うもワいしをびへの
れうまぐえるぐれのうちまをめ詰ちぐ
ちまうしがさうぐしうしのまもうえ
人のうちもつ。うちもうれやるあるべる
ゆうちれば家ぐいぐくうちびを
ひうて結ちてあり。掘楽ちゆ詰ふ。冷
文義ふ良清今いあつこのうちて方中弁ちう
なんなりけうれとぐめうをのて安づうへもべく

切ぬをぞ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

寺のまへなどを物ちらうもまてちゑ結ぶ事ゆゑ
れうちまつひいてはばすまゐあるとけんうとく
しれべべどちもけどとそ後ゆまもまち
まぐれまいりうち結へるあり（まん）ぶのうしづさ
おろしてひまどれまぐ屋風ちまぐこそうそめれ
きものひちうまやとうちうてのぐさうまへぶまや
（悦元紙ハ）ものけてそのひかへ人の内行と
そうそひまずうそびやうぶいちまぐのと
きびかうこそおいまきうてえもうそれど
そやうまいそまぐはれいとくさひまうく
海まうちうひまれどうぶまもあぐ

そのすそをひきちうまうぶ（悦元紙ハ）ぐうちまうあ
しとやうう
（悦元紙ハ）わかまうまとをひれ文べもけが心ざま
きあをけまうかうびぐきのまのぐうちつけや
けうづうかうき声ちれど誰ともそひちさ
れぐちる海むつうふう。けうじそまとそさうぐ
つうちうちうどもちううそひとそけぐう
ちれがいとはかうそうたうぬあ紙の心やは
れば世へまり結ぶまもず地うう結ぶ文書ま
ふつけて直衣ちぐこう海うそれうゆうれて未
ゆふびうちうう地うまぐうなまま

けてざれあるさまをこそ（洛也）ぶらぶらとめをりて、
そこ〳〵さ面をべてをるぶぜ、ゑんげ〳〵され
ばしをり、武蔵のまいるぞ〳〵とは、いづれとも
をくこゝろぐるにをくしまへると、兼好のこゝろ。
ちは（原）ちなのと（雲内ノヨミ又）ちなのとは、どれちとめぞのこゝろ。
げるいとゆ〳〵げるれどこゝろこゝろ〳〵げるる
こゝい（原）れちなとをぶまどうゝゝ地こゝげる
い面めこゝそその地こゝもまどうこゝそゝゝ怪（さうばい）弊
ちぐのこゝぐゝゝゆ〳〵げるるとゝゝはめこゝな
ゝり、何の弊ぶゝもこゝりはこれすこゝあとちべ
こゝげる心こゝちゝゝゝ〳〵ゝり

ほ 円義
夜ふかりのそゆらんずるよ。ぞれめとまりゆひし
大武ノ姫ノ五月ノ
をとゝのれそぐゝを。そゝいげ。月の日の言ける
つゝまれ。ゆこのうちびひやゝべし
ほゝ
をとゝあゆも神さびめゝ。沖川神ゆうきよの
ゝも。ゝゝへめれば。ゝ月の川ゆりをぞへてら
ゆゝ
ばゝ。けゝまゝの表を。遊び語ゆあとのゆゝ
うゆばゆゝもゝゝるゝゝやゝ
常
けてゝへばゝふのゝゝとゝでゆをはゆれ日
けの裏の袖ゝとけゝもゝおをずゆのゝゝくゝゝ
あへて。まゝゝゝゝゝいゝゝゝゝゝうゝすゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちぢにおもひくだくこころ
わかそでにそなる。
つぎたりとくめぐし。
ゆきかへりてつくをよび
ゆきてこそらへば。
のかてのくさいへば。
うけてさのれぞれ心ちりこんだいあるど
うちれどいつひちくこころちりるまぬて。
ぬぎよもこそこのもぐちのすてへぐばし。
ぬべうちまうげ。
なりてまう。
人をれ心ちは

あしの入ちのこあしまやるまちどいへど。
ちれいそぐこちまこうこのこ
ちまこ。ひちまこ
こでやとちりれのこ
あひちくこうこまりれ
あこびちれしのこ
こうこいこうこ
このこうこの
次のれ世の
くちこさ行ちこ

月の人びとの給まへのれうにとて、ちゐさう
なるこひのうへにまりのふばのうちぐこそすら
まもうちのまはちまぐもおもしけうれうれ
人なも人いそひすて給いざりうちぐ、づあか
ぐらつくるひとれうをごろろよけて
ひしとこふもあぐきちまや心ぐへのやうに
やつうちうん人をそなへおのへさうめとなるふまさ
むうひてうちうひちまんもいとなりげやくくて
さ人のひよれぐ殿のやうちれうちれ心く
ミのつてゝ面ゆおぐらりのへぐてこうてつて
ちうれとまてちまぐうつまめもむべちう

うちとそふ心のうちぐそこぶうけうけうだ殿のうちう
うるおりまもぐまぐいくきうこおりうく
まもうこうも人いうこうちうる祇とのく殺られ
のへうを、まくうすぐうれうれうちのやく
こぐさうう心ちまてやをくうれぐすくちうう
ちぐがかくうらいしうきちりうう幸の言うは
ひ月のれさうぐくちぐ殿いうぐ光一市のれく
をうぐ和、とちうつそぐううまおううぐり
つくうううまてのへうをうもれうくのく
殺れぐ羽いうちちぐうは少しもうちへ和れ
まぐうひのうるちうくいそぐを給うんく

ここしのへぐ（たぐ）てうくもあんなひらげられ
くん人のやうなもののふれくのくへぐ（ぐ）なひ
れぐ（ぐ）げれくる心ちぐするやくびりぐらてあ
泪ぐくておのへう（ふ）れ（ん）くをなふ（ん）くんくふく
心ぐくうて（ん）くもうちひくくぬのめなくこいうち
なりきくくの人ぐる心くくくくけううれ
あまうくあやくるくくかれしのひくなりのり
ちぐあぐちるくひいれのべくさやくうくこのるなり
くくくいちぐ人のあれぐりなめれぐ（ぐ）くぐくのく
くくくふのれぐ（ぐ）うちへ（ん）るも地うくてるんなに
たたれ（た）ちぐなりまくまうくうれくくも人るな

あれぐれなくくまり地べぐくれ親（ぞ）なりな
くれぐ（ぐ）いくけくうくくもるちてないくれば
なり（ゆ）まるあくうくくやすくも系ちれなずひん
ぐのなくくのくちん（ん）なまへちくなる（花ち）ぬいろれ
くくくて表こ地しるへなりや今一（菱）なりくまさ
まくびるくくくくひなりくくて泪のなくるを
泪ぐくくちくへるくくくくうう表ちるくん（ん）ぬい
くくほるくくと（ん）泣のひてくくをくくくへく
泪ぐくくつけてくれくくて表ちれぐくのびくく
すくくくるへくとぬくくちめれぐくるくくへく
るくくりぐくくひいれぬ泪くくを地くるへく

九六白
おとぐの今ぞ世にうつし侍へ浪さきげ
月ほどおもひぐこと〳〵されこそ世れどとあ〳〵れ
もあこのおほうれ世のおとぐのこころぐへも
ものべての人よいわぐずと世の人めぐいふれど
芳ようもろこのこまりゆくよ命ぐまもう
りこるおひこさとそこさへうへぐいこ〳〵
ても世代ぐひこりうこまへれぐもあんろげ
うこあ〳〵こ世ぐるとそおこさおります世月
よも大変いれわりこうるれいのどやうまて
おります良房おこれおとぐとこえけれい
まへへの朝よあすへて白るひこ節云の日も

裏
うちのぐこ紙うけして芳のこめうもこ
こへて〳〵こされ春院ちりこぐれ共余日
業薩院よ吟筆ありこ〳〵ぐこ紙あれど
保生いこ覚の代忌月ありどくひこ番こ稿の
多もいとおらこ〳〵されば院糸もれよういこと
つこひこげくをひび幸こけこうまけるあ
上道ア・みこちうりもぐめ心づひ〳〵人ぐ
これあを多よ所こぐこ冷こあう
色のけぐまれりめ吟ありておほこ保ぐ上系こまあ
おるぐあいろをこあへれぐふよくひとけあと
こやここえまぐこを保人ぐのこうぐくようい

るうらとなり院もつくさうよりねびまさるを
ものてれさ風よういち風めのそうろうすくまりを
のようりかいつぎとれ文人へものさばらでそれざえ
ーこうと学しうろ学逝十人を浮武ゲの川りさ
の心このをとをずーへてれ題ものお敷武
の心こめべきゆへあり学おくざうさ地むい池を
ばくぶいちずめ舟このりて池ともれ出ていと
すべちげせ日やうくぞうて京の舟どもこざま
ひて調みぜこうする程の山風のひぐさ地をとろく
ちさあるをこうる。ふとざれ武いうーこさうち
ちるでもまぢらひあそびめべき地おとせ平うう
めーうちなし始ろり義弓弦弓鞘まつはどーち弓の弦武
えんの程そーせて院のこうどり又さばりのこと
こそんやとの結ひするようけてその世のこと表し
ばーでけるまひうろ程ようぐ院ろれ
こそけ寄りなし
寓のこえげる者いむーこそむれしー
弦のちげでうこれる院のうへ
九室と敲へぶつ武こそも武こけげろ
うぐひ武の声。呻のこもやとこそ今ハ武郷つ
まて今のこるれこそこ者寄りなし
いーへとうさつろ学行ようこえげろ

雪の名さへうつくしあぢやうさうしるし活
へるこゝろいとをかしでうたをよみて

詠雪の名をしるしてさえかりはまづふれの
色やあきらかとの給ふ

ゆへくちくおりてさみだれもれつゝ降る
うちくのこゝちもあれがあまるまもなくれずやゆき
えんえうさはとしてげうあんの玉ゐとくて
ばつるるれば詠ものまへ

びて間のおとづれ琴のこゑ琴のれ
きてきんい御のおもさ
いつゝさどるのすゝれ

うつゝへるるのいとうへんうるゝ。さうげれ
あまるまふふあれうとあそびてづゝ
月ばるるさ出てなりうるゝ
うゝるぬぬとてなりあそびくやうれ
文めれどうるつゝよ。大きいの文かります
うさをうぬてふひきくきうはぬぬ
きけるれば詠へさまつるをのふなるぬ
ともまふひ給ものるゝびのそれ毎へ
ありいとうるぬすぬ
詠加家をせひむきくしのてぐくるぬ
毎ぬひもわくりけるもれとなりうれを

はるとつまの人くやりめろうえひよりうづのときこれ
ゆきけりなをいとどとうでけるくつろかうそーまいろ
ゆるよおんさうるまうのれ世のことはるひ半それ
ゆうとうちるうるゆ給さうべきれうげごもをれ
ゆて後悪のけらめもうふのへワれわさうふちん
ちぐうあゆりめうまくくまと学しのふ坊とぐも
うべうやうようるうこうこうこうこうこうひて
ちぐ学めふのぐやうるうでうくをのふひぐう
まも治の れ出あさはぐて ひうる学ーせん世を
うまちのべうされすくうをはうれめれよ ふうと
いうーへをうひ坊ぐ内坊のうんのううるのぐ

やうるはぐーせうる意ちうこと坊ほうう今もうれ
べきゆり風のうてよーもはのあう治ーくうえざう
べーぐ治ハ坊ぐやけるうそうきうを治ーう坊ぐぐ
れううぐりのつうきうりうりうるれのうとう
れれれれ心よううるめけぐ命ちうぐうてうく
世の果うううくうやうう人海ほうそうろ河流
ぐーむつうけう老まてかうすまくーうさうれ
うしまうりておんもくべうーうえうくうぐ
うひうううのひけううくうだうの私この日のう
うけうけうけうて進ようりのひめうーつを
わうーううう絶ぐとううを治ーうだううの人

ヨづくよ三人ちんありけり秋のいりさめしてかぜ
ちりそて坊主一ぬりあがれ人のかたとワすれて世
をけれど拾くのもちるまもりそそ給もつ
れば月ちりて雨ども雨もそれ
きりてこだちりさりめべきさりて実しかてこ
ミる心ひとりきれ中ちり方ちがこれ雨
みをなりて月ひろくこ前ありてそうこそて
堀つちきに山里人ちがともけどんすまちん乃れ
心こそ六条宮極つちり中殿のちきのほと
月氏四ちとちてけちを結或ちを安ちん年そ
ぬ十ちちりのひけちせれ賀のこと言ちんん

堀しまちちるちがもげるちてぐちきこと
ぜちりこそてさやうのれつそぎもなるでちは
光づくちんれ家ちおしてとつそぐも結ぐ
ちんりていかりてこのれつそぎのくれちんの
こぐく人舞人のこぐちるどれ心しへつと
ちこのち強伝法事の日のこそくちぜちるで伝
ちんちん人いつそぐを結けちひんぐの院まも正
けてちちちふこぐもありれちるひまていとこ
やびうちちちちちんちのひけち世中
ひぐきゆみれちれつそぐちちと或ちこのこやまと
こここちりてぐ世中ちいあま〇これ心ちれと

ひいてうをがあやまちをけすごとくなれて
ちりちりあえべともれうういちぐうれちきと
のこはうるるひしとやひ西ちまちくこと
もありけるといとあしくうちもなばし
けうとくあるうちづくひまくる人ぐはれ
中よりうちきうれさひきられてせるところ
ちりあでうちきくるひうしげうれちまくれ
すきとで就富までしまひるどがうばうり
なばすよまちくこのせるあまうまぞひぐしいと
ちうぢいえうめうちひのあの家のうちもあうべき
れとうろうびめ就かう方ハ心ゆるず地しとのこれ

ばしうりかれのれまでらひの程ちどまも
れよういちうちやうちうちといるくうちあしとはまひ
ちうこめくるちうべし八月ハ六条院けうちてく
ちうのふひけどうのまちい中宮のれあうこや
れがやどでおうしますべし辰巳ハ殿のおうす
べきまちやうしうこいひんぐの院ハ住うまま
基のれ方いめいのまちはあしの四方とおぼし
ちうてうちもめうりまくありけう池山ハもびんすき
有ちうとばくびしくへて水のとまむさ山のとき
てとあうあて植ぐうれうぐのれねばひの心で
へをけうちをめうり南ひんぐい山ぬくうちの

茂のまゝをいけてうへ池のうちはおもしろくそ
だれておもへらるゝ前栽よゝ紫紅梅櫻藤山吹つ
つじなどやうの茂のまてあそびをつゝきはうへ
で秋の前栽をかしくはのうるまさるゝ

秋好中宮のれいぜいのやまと絵紫のゆかりをもとめ給へるにつけてもとうの中将もまけじたましひをかたぶけ給へるあまたの山ざとをうつしたる水ながれをもとめ給へるあまたの岩をたてまつり給へり

瀧おちてあつまりて秋の野をながるるかはのながれそのかしらのあひて盛なるにながれたる大井のつらの山ぶきにけぶかくながれたる姿なり

花ちるの方へ

わのひんがしすぐしげちる紫ありて夜も
げるうれるれまへちる前載られ行ちる風
すぐしるべくまぐるさ森のやうなるまどと
まづくおもしろく山里めきて所花ざかりこと
きるしつてびゆゆ栄ちる栄ぞ
しこきびるるちどやしのられのくさぐ
とうへて春雨のまなそのやうちまどう

東ゆきて、さ、ぬて馬場のぼうらちゆひ
て、よ月のれあそびて、水のほうる菖蒲
へ、げ、をて、じうのよ、ゆ、して、ぬるさ
ぶめどもをさ、のへて、ぬ

ろのまちくおなてつきおてこくまちち
りべてのくさよ松のまーげく雪とまて
あそぐんこくりりくをこうと冬のくぐめ紙
雪のむすべき新のまぐさ山ずだのすぼきちぐを
ぐーあくるもちあたこうろひつり治一変
ゆしこうへうひぐんのこくはこうぐ治ーこぐ
まとこぐめを治ーこぐ治ぐーこやうあり
とて中家ハすこーのべを治例のひくる乳色
じまあ是敬里でそ東をひてこけろひ治考食のれ去
つこひいびびまあくひどいと心ーくちり赤車十又
れ前四位め位ちこて六位無じ人ちどいこくくを

限をこくをのへり・こちくこさ行こいあーず世のそ
ーまあやとそぶきめへれいあるぐどくよあどろくこう
りめーこくくいちー今一月のれ乳色をあきくあど
ー治ゾで治治のこくをひてそちくいまてこうづさ
めへいげるこうもあるべくこくを色ちとこえこう
女房の醫司まちれおてくくのこるげで大方のこと
こうもめでこうけっめ六日まて中家まるぐこを色
治ーれれぐーこくこる治こへどいと一本をーれさいこいの
をぐれのへりけっをいがこう和まてれ有位のあく治
まくくをちこくるおりーまをいを世るあるくあをちれ
めへるこくすぐれてゐんおりーまーけるこのまち

まちの中のへぶてまでへらどもらうちどもとくく
ゆきとよりてげぢくあつさあるひはもあつ
まり九月はもれば紅葉もちくをばて家のかまへ
えもいそがず面白し風おのづから少蒼ばれたこを
ちまでこの紅葉をこそまぎて吹くるまはもせ
まり朝はやくるりつくものこさあるあしをん
のあり柏ばかりておくちどものうまれてくるごとく
いろうちれて白うつる色のそまるを流て糸
うりきぶしきあれどつくものあつふとをん
えばし拾ばりけるさう一本ふとひもれうい
まてあり有さ後おかるはまぶれまうおうう

此もうそそうあるを
秋好
心ゝ長まりそのしつぐやどれ紅葉を風乃
つそよぶるるるつくさ人ぐれけりれまてちやす
さ後ぐもあり此れくりもれるこのるこるけし
さいこはあるぐの心ぐ人してゑ紫のえぶる
紫
風よ散紅葉いろしく長の色を岩れの松ま
ゆてこそこゑ此岩ゑの松もこ後ゑこれぐえるれ
つくりこぐもありくりあへぶやうりの人家
ゆくこさあるぐを秋好あり
原汀
ぐあへり原汀あるぐ紅葉のれをこそこぶぐれるぐ
あり長の系ざりこ此れいくへきぶくの人ぶば

紅葉とりひろうさんハ角つるゝ姫のさうんをまち
をさうゝさぞさて姿の張(げ)ゝ立くれてゝそつうき
ゝといひ出るあと笑しかも(扨)つゝやゝけさきね
れ有様のこゝ初日ゝよいとぐさつゝやゝ水れすまね
まて笑てゝより給(ほゝ)たねの(笑)ゝ方ハゝうゝくゝ乃
れうつろひさぐまりて子ぐちれ人ハへけゝちく
まぐゝハうんとさて神無月ゝ(注)ハ
たりゝひとの有様をさうずてつゝなり注水
家のれゝあをなぐさばちゝのゝほうもけぢ光
ゝちゝゝぐいとゝゝちゝもてちゝせゝ陶人